

ザ・ジャーナル!!

2006.08
Vol.1 No.2

夏号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2.3

ジャスト ナウ ● **わいわいの医療を支える専門職 第1弾** ——— 4～6

シリーズ ●岡山医療センター物語 第2話

『岡山の子供たちはこんなにも恵まれている。もっと感謝のココロを!』 ——— 7

病院活動案内 ——— 8

病院ご利用の皆様へ、ワンポイントアドバイス ——— 8



写真 | 院内での夏祭り

This is our hospital!

センターTOPICS

今号から、岡山医療センターの最近のトピックスを順次ご紹介してまいります。



新統括診療部長からごあいさつ

呼吸器外科 東 良平



このたび7月1日付けで統括診療部長を拝命いたしました。身の引き締まる思いで毎日を過ごしております。振り返りますと、1980年に当院へ赴任し、1989年からは呼吸器外科医長として内視鏡手術

を推進する傍ら、診療録の管理、クリティカルパスの立ち上げ、電子カルテの導入に携わり、昨年からは医療安全管理室長としてリスクマネジメントに関わってきました。

今、当院は手術数が増加し、平均在院日数が短縮し、

新入院患者数が増加するという、急性期病院として望ましい姿へと急速に発展を遂げています。若い医師や看護師の増加で活気にあふれています。そうした中で今まで以上に、医療の質と安全の向上が問われていると考えています。

各診療科、各部門の垣根を越えて連携をとりながら患者さまの満足、職員の満足が得られるような質の高い安全な医療の提供のために努力したいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

小児病棟の中庭にバラが咲きました!

院長 青山 興司



小児病棟(6B病棟)の前の屋上庭園に50本のバラが咲いた。今年は例年になく寒かったため、開花が少し遅れたが、見事に咲いた。昨年の暮れ、小児病棟にプレイルームを新設し、その記念にスタッフが植え

たものである。以後も皆が一生懸命、施肥、水やりなどを行った結果、濃紅色の香り豊かなミスターリンカーンと淡ピンクの気品漂うロイヤルハインズが見事に咲いた。次々に新しい花を付け

てくれており、7月になった今でもプレイルームの窓越しにその美しさを鑑賞出来る。病棟に生けられた一本のリンカーンが香りと共に安らぎを与えてくれる。

ちなみに、バラの花言葉は愛、恋、美、幸福で、すべての人に幸せを運ぶものであり、バラの葉は「希望にあふれる」、「頑張り」で、患者さんへの励ましであり、大輪のピンクの花は「赤ちゃんが出来ました」と皆を喜ばせるものである。



総合案内紹介

看護部外来師長 的場 佐智子

4月より専門的知識を持った看護職員による総合案内を開始しました。月曜から金曜日朝9時から12時に、師長・副師長が輪番制で医事受付前の総合案内所で行っています。

来院される患者様・御家族・面会の方がスムーズに当院を御利用頂けるように看護師としての専門的知識を駆使して御案内することを目的としています。

業務内容は病院内の案内、受診科やその他種々の相談、初診・再診・救急・予約等の受付方法の説明、苦情に対する対応、院内ボランティアとの連携、遺失物の照会等バラエティに富んでいます。患者様からは「気楽に声を掛けやすくなった」、「ちょっとし

た相談がしやすくなった」と好評を頂いています。当院を利用される皆様にとって、より「やさしい」病院となれるよう、工夫と改善を続けていきたいと思っておりますので、御意見、御提案をどんどんお寄せ下さい。



栄養管理室活動紹介

栄養管理室 植田 麻子

栄養管理室は管理栄養士4名、調理師7名、事務2名で構成されています。安全でおいしい食事の提供、適切な栄養管理をモットーに取り組んでいます。

今年2月より飲みこみが悪い方のための食事を開始しましたので、紹介させていただきます。作成にあたっては、医師、言語聴覚士、看護師など職種の方と検討会を開き、専門的な意見、情報を得て食事に反映することができました。食事の内容は「口腔内でまとまりやすい」「見た目が良い」「おいしい」「食べやす

い食器で」「エネルギー1200kcal」と調整しました。また、ネーミングの募集を全職員に行い、33件の中から「ごっくん食」に決定しました。聞きざわりが良く、患者様にもわかりやすい名前としています。退院後も食事が継続できるように、食事内容や調理についてのパンフレット、他院への情報提供の資料も作成し、わかりやすく説明しています。これからも、その方にあった食事形態、食事内容が提供できるようにチームワークよくがんばっていきたいと思います。

ある日のごっくん食

高エネルギームース

検討会風景

魚とにんじんのムース

茶碗蒸し

さつまいもとリンゴの甘煮



看護学校増築工事始まる!

経営企画室 植田 誠司

昨今、各地の看護学校経営は厳しさを増しており、統廃合が進む動きもみられます。マンモス校のひとつである当校では、経営安定化、効率化を図りつつ、増大する看護師需要に対応するため、平成19年度より1学年の定員を現状の80名から120名に増員することとし、昨年来、準備をすすめてまいりました。この6月、ようやく増築工事着工にこぎつけることができ、重機の搬入、基礎工事が始まっています。工期は来年の3月中旬までで、これから本格的な工事となります。現在の校舎の東側に地上5階建て、延床面積1,468.90㎡の増築工事をするとともに、教務室を含む

改修工事を予定しています。これから、大きな柱が立てられ、徐々に建物が姿をあらわしてくる様子を楽しみに見ていてください。



oniビジョンで看護師さん大活躍

oniビジョン 川口 剛

ケーブルテレビ・oniビジョンの番組「ニュースショー」(月～金曜)で、5月から、国立病院機構・岡山医療センターの看護師さんが登場するコーナー「ナースの健康チェック」が始まりました。担当するのはoniビジョンのキャスター川口剛です。身長約175cm、体重約90kg...いわゆる「生活習慣病予備軍」と自認しています。

コーナーでは、看護師の皆さんに身近な健康アドバイスをしてもらっています。皆さんテレビ出演は初めてで、打ち合わせのときから、「緊張して話せるだろうか」と不安の声も聞きました。しかし、本番組が始まると堂々と説明されています。

5月24日と6月28日の2回は、「生活習慣病」がテーマでした。この中で、健康診断などで手にする「血液検査表の見方」を取り上げました。

私は、視聴者のためにも(それよりも自分のため?)、体を張って健康チェックをしないとイケないと思い、岡山医療センターで血液検査を受けました。多くの看護師さんに見守られながら採血した結果を、

番組内で解説してもらったことにしました。

「γ-GTPが高いですね」「中性脂肪が高いですね」。次々と浴びせられる鋭い指摘に、ショックの連続。これまでの健康診断の結果で、少しは予想していたものの、最新のデータをもとにアドバイスを受けると、「健康的な生活をしないとイケない」と思う反面、「血液検査でここまで分かるのか」と身をもって感じる事ができました。視聴者の皆さんにも、健康の大切さが伝えられたと思います。

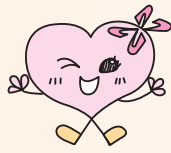


写真左が川口です

NEWS SHOW

oniビジョンのニュースショーは、月～金曜の午後6時、8時、10時に放送。

「ナースの健康チェック」は、第2、4水曜に設けています。是非ご覧ください。



われわれの医療を支える専門職

第1弾

病院には、医師、看護師以外に、検査部門に臨床検査技師、診療放射線技師、食事関係は栄養士など、さまざまな業種の集団が力を合わせて、医療を支えています。

さて、医師に専門医があるように、看護師にも専門看護師があります。薬剤師、臨床検査技師、臨床工学士、診療放射線技師、栄養士、リハビリテーションの各部門にも専門分野に応じた認定資格というものが存在します。それらを2回に分けてご紹介したいと思います。

まず、第1弾として、臨床検査技師と診療放射線技師についてご紹介いたします。（臼井記）

臨床検査技師

森下 孝

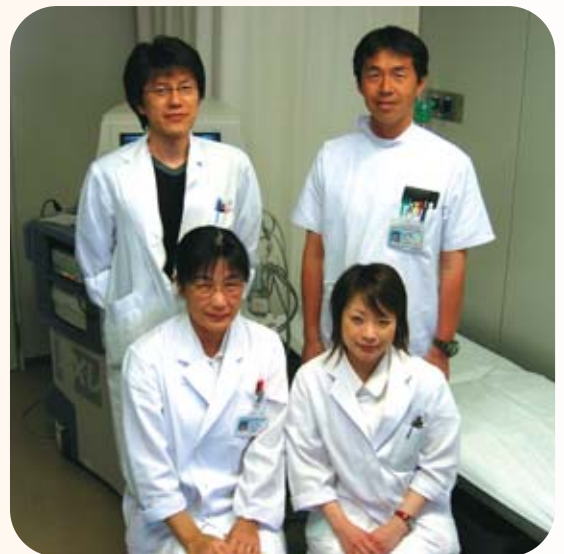
病院にかかり、医師がいろいろな検査をオーダーします。血液検査、尿の検査、心電図、脳波などの検査を実際に行う技師の人たちがいます。臨床検査技師と言います。国家資格で、3~4年の専門の学校を卒業して、国家試験を受けて、資格が認定されます。当院には約20名の臨床検査技師が働いています。その中で、より専門化した資格があります（表参照）。

各種認定資格取得者数

資格名	取得人数
超音波検査士	4
二級臨床検査士	2
認定臨床微生物検査技師	1
認定輸血検査技師	1
細胞検査士	1
糖尿病療養指導士	1
臨床工学士	1
医療情報技術認定技士	1
健康食品管理士	1
電子顕微鏡技術認定技師	1
第2種ME技術実力検定試験	1

今回は特に4人の臨床検査技師が取得している「生理機能検査に関わる専門職」超音波検査士をご紹介します。

当院生理機能検査室 超音波検査士



前左：中山技師、前右：赤尾技師、
後左：森下主任技師、後右：藤田技師

心臓超音波検査を実施している 超音波検査士



検者：中山技師、被検者：藤田技師



N O



超音波検査士という資格をご存知でしょうか？

超音波検査士とは、日本超音波医学会規則によると、「学会により認定された超音波医学ならびに医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目的とし、超音波検査の優れた技能を有するコメディカルスタッフ」（少し堅い表現ですが…）をいいます。米国では「ソノグラファー（超音波専門技師）」として臨床医と同程度の地位が確立されているのです！

私たちは、臨床検査技師の国家資格を有しており、日本超音波医学会等の学会に3年以上在籍し、規定数以上の症例経験をつんだ後、認定試験を受験、合格取得しました。取得後は5年ごとの更新があります。

また専門分野が臓器別に6つあります。当院生理機能検査室には、循環器領域3名、循環器と消化器領域1名が在籍しており、特に循環器領域を取得している超音波検査士4名の在籍は、中・四国の国立病院機構の中ではトップレベルです。当院では、心臓、腹部および頸動脈超音波検査を担当しています。

診療放射線技師

能登 章文

エックス線撮影、CT、アンギオなどのエックス線検査や、放射線治療用の高出力エックス線及び電子線など医療用放射線を扱い専門的な業務を行う診療放射線技師という資格があります。臨床検査技師と同様に大学や専門の学校を卒業し、国家試験に合格して、診療放射線技師となります。当院には15名が働いています。

診療放射線技師のなかにも、より専門の認定資格をもった人たちがいます。（表参照）。

各種認定資格取得者数

資格名	取得人数
第一種放射線取扱主任者	1
第二種放射線取扱主任者	1
第一種作業環境測定士	2
衛生工学衛生管理者	1
放射線管理士	1
放射線治療管理士	1
陽電子断層撮影認定技師	1
放射線治療専門技師	1
放射線機器管理士	1
臨床実習指導者	1
マンモグラフィ認定技師	7

今回7人の有資格者の技師がいるマンモグラフィ認定技師の資格をご紹介します。

検診マンモグラフィ認定 診療放射線技師

最近、乳癌は女性の最も頻度の高い癌になりました。各種メディアを通じマンモグラフィ検診が注目されています。乳房内の微細な変化を捉え、乳癌の早期発見に有用なマンモグラフィですが、細かい変化を捉えることができる半面、様々な要因で画像が影響されやすい側面も持っています。そこで常に安定した画像を提供する技術を習得するために“検診マンモグラフィ認定診療放射線技師”の制度があります。当院にはこの講習会を自主的に受講し認定を受けている技師が現在7名勤務しています。マンモグラフィ撮影や機器の管理は主に認定技師が対応しています。

去る6月10～11日には、当院を会場に国立病院療養所放射線技師を対象とした技術認定講習会・認定試験が、地方都市では初めて開催されま

私たちは進化しつづけます

した。中国・四国地区全域から集まった50名の技師が一堂に会し、撮影技術のみならず乳癌の臨床から画像管理・読影まで幅広い内容の技術習

得に励みました。院内多方面の方々のご協力により無事全日程を終了することができました。この紙面をお借りして、御礼申し上げます。



技術認定講習会



病院の中ではさまざまな職種の人たちが、専門性を高めるべく、日々努力をしています。認定資格はその証なのです。第2弾をご期待ください。

ボランティアさん大募集!!

ボランティア室室長 赤木 美恵 (副看護部長)

ボランティア室は平成17年度より室を立ち上げ、現在約30名の地域の方々にボランティア活動を行っていただいています。

内容としては①外来患者様のご案内②リハビリ終了後の患者様の車椅子等介助③外来観葉植物の手入れ④3階ミニ文庫の本の整理整頓⑤6B病棟の患児へ本の読み聞かせ等を実施しています。

また、入院患者様の精神的慰安を目的に音楽・踊り等催し物も企画、実施しています。

活動についてはボランティアの方々とは年2回の話し合いの機会を持ち、活動の範囲も患者様、職員の意見等を踏まえ、拡大していこうと考えています。そのために、今後ますますボランティ

アの人数を増員していきたいと考えています。ご希望の方がおられましたら、当医療センター管理課へご連絡ください。お待ちしております。



シリーズ 岡山医療センター物語 第2話

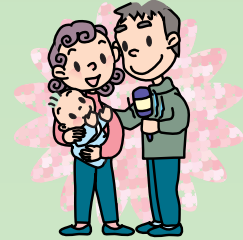
HEART

『岡山の子供たちはこんなにも恵まれている。もっと感謝のココロを!』

今日も当直か?小児科医Dr.Kはつぶやいた。当直とは、夜、たまたまた患者さまに対応するために、待機している当番のことである。普通は休める時間のほうが長いので、翌日も勤務をするのが医師の場合は慣例になっていた。しかし、昨今、事情は変わった。小児科の当直は本当の当直ではない。夜間勤務である。それでいて、翌日も通常勤務が続くのである。だから、最近では、夜に呼ばれることが少ない科が医学生に人気が高いのである。3Kと呼ばれる科は敬遠される。公立病院では、給与体系は卒業年度で決まる。それなら、楽がいいというわけである。日本などの自由主義の国では、職業選択の自由がある。専門を自由に選べるのである。

小児科には、夕方から深夜までひっきりなしに子供を連れた親の行列ができています。また、少子化対策として、乳幼児の医療費は無料になり、夜間外来は混む一方である。日本全体での小児科医の不足は深刻である。しかし、当院では、以前より、小児科は24時間体制で頑張ってきた。また、小児科部門と新生児部門の2つに分かれての万全の体制である。日本の乳幼児死亡は昭和30年には出産1000人あたり50人くらいだったが(現在の東南アジアくらい)、その後、医学の進歩、小児科医、産婦人科医の努力によって、3人台になった。特に、岡山県は山内逸郎先生のご努力もあり、乳幼児死亡など3つの指標が日本でトップになった。乳幼児死亡率が4%を切ったのは、人類史上初のことである。画期的なことなのだ。人は自然に普通に生まれて来ると皆、慣れてしまっているが、それは、我々の先輩のお蔭である。明治のころは10人生まれて1人が死に、大人に育つのは半分くらいだったのです。感謝のココロが必要なのだ。アフガニスタンなど乳幼児死亡率が100%近い地域も地球上には、まだある。

小児科医だけでなく、他の科の当直医も、当直の看護師、検査技師、放射線技師、事務の人、みんなの力で病院の24時間が成り立っている。そのことを少し考えてみようではありませんか?きっと感謝のココロがうまれてくるはずですよ。



小児科医Kはでも、自分の専門が好きなのである。病気の子供がよく笑顔で退院するのを見ると、よかったと感じるのである。

しかし、現在の日本は、やさしさが欠けているような気がする。以前にくらべて豊かになり、便利になったけれど、忙しくなり、余裕がなくなり、毎日、時間に追われている。何のための技術革新や文明なのか?政府は経済成長、経済成長、人口増加推進というけれど。それが、我々の幸せのためになるの?と、小児科医Kは考える。

ココロに、ちょっとでもゆとりを持つことができたなら、人にもっとやさしくなれるのではないでしょうか。やさしくなれば、きっと、感謝の心で日本は満たされるでしょう。

(臼井記)



夜間や休日における新しい小児救急診療体制のお知らせ



当院では、小児救急医療に対して24時間体制で対応していますが、夜間や休日の診療体制を更に充実させるため、7月から地域の小児科開業医の先生方と当院の小児科医師との協力による診療を実施しています。

当院において地域の小児科の先生方にも夜間診療を行って頂くことにより、24時間体制での小児救急診療体制の確保・充実をめざします。

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

TEL.086-294-9911 FAX.086-294-9255 〒701-1192 岡山市田益1711-1

[病院活動案内]

地域医療研修室 セミナー・講演会(9月～11月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日程	種別	演題/内容	演者
9月19日(火)	初期治療セミナー	小型肺癌を診断する	当院呼吸器外科医長 安藤 陽夫
9月28日(木)	講演会	ムシは素晴らしい! 新しく古い皮膚潰瘍治療法:ウジムシ治療	岡山大学大学院 医歯薬学部総合研究科 心臓血管外科助手 三井 秀也先生
10月17日(火)	初期治療セミナー	悪性リンパ腫を疑ったとき —診断へのアプローチと最新の治療—	当院血液内科 朝倉 昇司
11月21日(火)	初期治療セミナー	乳癌の最新の診療 —ガイドラインを中心に—	当院外科医長 白井 由行
11月30日(木)	講演会	放射線治療の現状	当院放射線科医長 新屋 晴孝

●レガッタ2006 戦績報告●

実行委員：三好章仁(スーパーローテ2年)、川口正志(同1年)

去る6月18日、第52回鹿田レガッタが開催されました。当院は今回で出場3年目となりますが、本年から研修医が中心となって企画し、研修医に加え、小児科・小児外科・検査科・薬剤科から有志を募り、合計6クルー、計30名で編成しました。大会前日からの雨は、予選開始の早朝7時にはほとんどあがり、全員眠い目を擦りながら、徹夜明けの重い体を奮い起こして漕いで漕いで…。当院“連合艦隊”は、6クルー中5クルーが予選突破準決勝進出と、“予想に反し”かなりの好成績でスタート。ぐずついていた天候は、予選が終わる頃にはうそのように太陽一杯の夏日となりました。青山院長をはじめ多くの職員の方々が応援に来てくださり、昨年同様、小児科“古城シェフ、金谷シェフ”の繰り出す料理の数々

に舌鼓をうちつつ、ビール片手にバーベキュー、スイカ割りなどのイベントもを行い、さんさんと降り注ぐ太陽の下で楽しい丸焦りタイムを過ごしました。



さて、試合はというと、1レース1チーム勝ちあがりの準決勝男子では、ヤングボーイズ1号、子ども1号、子ども2号が同じレースで同士討ちとなり、おまけに、昨年優勝の岡大脳外科選抜チームも同じレースという大変な事態に。まともに戦えば勝ち目は無いため、ヤングボーイズ1号、子ども2号をおとりして脳外科艇をけん制し、子ども1号を勝ち残らせる作戦でのぞみましたが、良心の呵責と体力の限界に阻まれあえなく敗退。他のレースも敗退し、全艇準決勝で轟沈しました。とはいうものの、「来年こそは捲土重来!」の意気高く、久しぶりの開放感、達成感、心地よい疲労感を味わいながら、そして今まで以上に気の置けない仲間となった「連帯感」を実感して、一同帰路につきました。レガッタは3年目にして研修医を中心とした若手の「公式行事」として定着しましたが、これも、医局長、看護部長はじめ職員の方々の温かいご協力、ご支援のおかげです。これからも、どうぞよろしく願い申し上げます。



●病院ご利用の皆様へ、ワンポイントアドバイス●

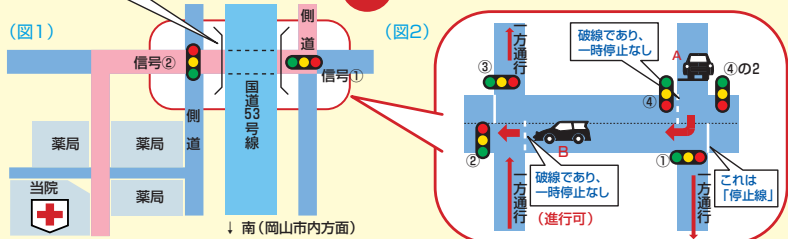
当院に自家用車でおいでになる皆様のなかには、「病院が目の前に見えているのに、道に迷ってなかなかたどり着けなかった」というようなご経験をお持ちの方が少なくないと思います。関係各署と善後策を検討中ですが、その中で、最近、患者様から実際に頂いたご質問にお答えする形で、“ワンポイントアドバイス”させていただきます。

右側側道から信号①を「青」信号で右折した自動車は②が「赤」信号の場合にこの位置で停止すべきかどうか

質問

病院の近くの交差点について、「青信号で右折したらすぐ信号が赤である。停止したら後続車にクラクションを鳴らされた。一時停止する必要があるのか?」

回答 「一時停止の必要はなくそのまま進んで構いません。」



ア. 津山方面から来た自動車は国道53号線をおり、側道を南下してAの位置で青の信号①に従い右折します。(図1および図2)
イ. そのとき右折してすぐの正面信号②は「赤」になっています。(自動車の位置はB) (図2)

編集者から ●あとがき

各地に甚大な被害をもたらした梅雨が明けた途端に、こんどは全国的な酷暑となりました。今号では、読者の皆様に少しでもすがすがしさを感じていただけるような、筆者の「顔」が見える、元気のいい記事をラインアップしたつもりですがいかがでしたでしょうか。次号からは、さらに多くの職員や患者様の声をお届けできるよう、紙面を充実させてまいりますのでご期待ください。近頃は、子供が犠牲者とな

る痛ましい事件が連日のように報道されているだけでなく、各地で産科の閉鎖や小児科医の不足が大きな社会問題となっています。私たちの病院には、毎年全国から、小児科、新生児科、小児外科、産婦人科など成育医療を志願する研修医が多く集まっておりますが、将来の彼らの幅広い活躍・地域医療への貢献に大きく期待したいと思います。

(大森記)

ザ・ジャーナル!!

第1巻 第2号

平成18年8月1日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255